

課題の4 アレンジアスター夏秋品種比較調査（新規）

お盆用切花として需要が見込まれる4月～5月播種のアレンジアスター夏秋品種について、本市の栽培に適している品種を選定するため、生育や切花品質を確認し、特性を把握することで今後の栽培普及の資料とする。



左：トゥモローパープル

右：トゥモロースカーレット

1 調査内容

（1）栽培環境：ビニールパイプハウス 60 坪（4 間×15 間）を使用

（2）供試品種

品 種	種苗メーカー	早晩性	花色・花形
トゥモローパープル	タキイ種苗	早生	紫中心黄色・小輪半八重咲
トゥモロースカーレット	タキイ種苗	早生	赤中心黄色・小輪半八重咲
ステラディーブブルー	サカタのタネ	中早生	紫中心黄色・小輪半八重咲
ステラスカーレット	サカタのタネ	中早生	赤中心黄色・小輪半八重咲

※早晩性及び花色・花形はメーカーカタログ記載内容

（3）調査項目：採花期、切花品質

（4）耕種概要

①播 種：4月2日

②定 植：4月30日

③栽植様式：畝幅 160 cm（床幅 100 cm）、12 cm 8 目フラワーネット使用、6 条植、黒マルチ使用 ※栽植本数 3,300 本／a

④施 肥 量：N：P：K＝1.0：0.8：0.9kg／a

2 調査結果

（1）生育状況

生育に関しては定植後から気温が高めに推移し、活着も良く順調に生育した。

しかしながら、開花直前ころからステラシリーズにおいてフザリウムと思われる立枯病が僅かではあるが見られた。

害虫については定期的に防除したため品質に影響を及ぼすものではなかった。

（2）採花状況

採花状況については表 1 に示したとおりであり、開花始期はトゥモローパープルが 7/26 日と早く、トゥモロースカーレットが 8/8 日と遅かった。

ステラディープブルー及びステラスカーレットは開花期間などが同じであり、品種による差はなかった。

表 1 採花状況

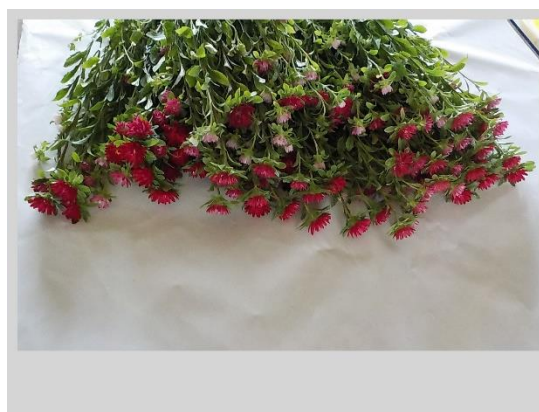
品種	採花期間	始期	盛期	終期
トゥモローパープル	7/26～8/2（8日）	7/26	7/30	8/2
トゥモロースカーレット	8/8～8/12（5日）	8/8	8/9	8/12
ステラディープブルー	8/2～8/8（7日）	8/2	8/6	8/8
ステラスカーレット	8/2～8/8（7日）	8/2	8/6	8/8

※始期は全体の 10%、盛期は 50%、終期は 90%を採花した時とした

【参考】採花状況



トゥモローパープル



トゥモロースカーレット

(3) 切花品質

切花品質については表 2 に示したとおり、切花長においてトゥモローシリーズはステラシリーズよりも 10 cm 程度長く、有効花蕾数や有効開花数はどの品種でも大きな差は見られなかった。

表 2 切花品質（10 株平均）

品種	採花重 (g)	切花長 (cm)	有効 花蕾数	有効 開花数	茎径 (mm)	調整重 (g)	出荷規格 (cm)
トゥモローパープル	102.6	105.0	18.5	12.0	9.0	62.9	80
トゥモロースカーレット	100.6	104.2	19.6	14.0	9.7	69.8	
ステラディープブルー	100.3	92.2	19.0	13.0	7.7	65.1	
ステラスカーレット	101.6	92.7	20.4	12.0	7.4	68.6	

※ 有効花蕾数は開花可能な花蕾数とした

※ 有効開花数は開花から日数が経過して品質低下の恐れのある花を除いた花数

※ 調整重は 80 cm に切り揃え、下葉を 15 cm 程度取り除き、開花及び着蕾を調製した後の重さ

3 まとめ

お盆向け切花用としての栽培であるが、トゥモローパープルに関しては採花時期が 1 週間～2 週間早かったため、播種日を遅らせるなどの対応が必要である。その他の品種は概ねお盆前のお荷となった。切花品質について、トゥモローシリーズはステラシリーズよりも切花長があった。

そのほか、どの品種においても有効花蕾数などの項目はほぼ差がなく、草姿としてもボリュームがあった。

また、フザリウムによる立枯病の罹患株はステラシリーズで散見されていたが、トゥモローシリーズでは見られなかった。

これらのことから、全ての品種において草姿やボリュームはあったが、播種時期を調整する必要や立枯病に注意が必要な品種があることが確認された。